

財団法人米子市
教育文化事業団
文化財調査報告書

2

目久美遺跡

— 下水道目久美町地内枝線その4工事に伴う —
埋蔵文化財発掘調査

1992.11
米子市教育文化事業団

例 言

1. 本書は、平成4年度において財団法人米子市教育文化事業団が実施した目久美遺跡（下水道目久美町地内枝線その4工事）にかかる報告書である。
2. 調査の組織は下記の通りである。

調 査 委 託	米子市（米子市長 森田隆朝）
調 査 主 体	財団法人 米子市教育文化事業団（理事長 森田隆朝）
調 査 担 当	藤原裕子（財団法人 米子市教育文化事業団 調査員）
調査協力・指導	植田建設、杉谷愛象（米子市教育委員会教育文化課主任）、 下高瑞哉（同主事）
3. 出土遺物はすべて米子市教育委員会で保管している。
4. 本書の編集及び執筆は米子市教育文化事業団が行った。

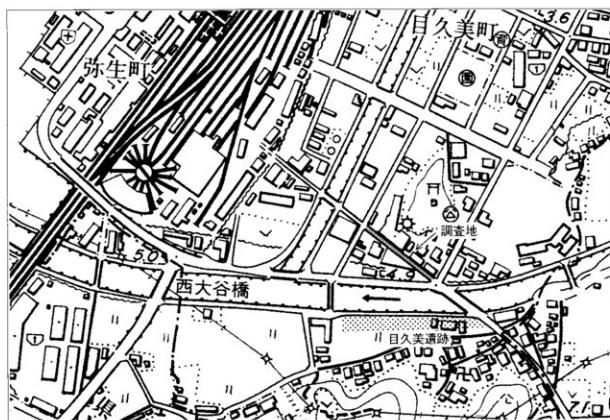
目 次

例 言
目 次

I 遺跡の位置と環境	3
II 調査の概要	
調査の経過	5
調査の結果	5
出土遺物	6
III 小 結	6



第1図 調査位置図 (1 : 50,000)



第2図 調査位置図 (1 : 5,000)

I 遺跡の位置と環境

本遺跡は、昭和8年加茂川の開削時に、地元の清水安造氏により発見されて以来数度の発掘調査を受け、山陰を代表する縄文・弥生時代遺跡として広く世に知られている。遺跡は米子市日久美町258番地一帯に所在し、JR米子駅南東約600mの市街地の外れの水田下に包蔵される。行者山山塊北側の山裾と、そこから派生する独立小丘足尾に開かれた扇状に広がる山裾一帯の径200m程の範囲と推定され、昭和57・58年に、加茂川改良工事に伴う本格的な調査が2500㎡にわたり実施され、弥生時代層から多量の土器、石器と共に動植物遺体、ドングリの貯蔵穴48基が検出されている。昭和63年度の調査においても弥生時代水田面、足跡、畦畔等が確認されている。

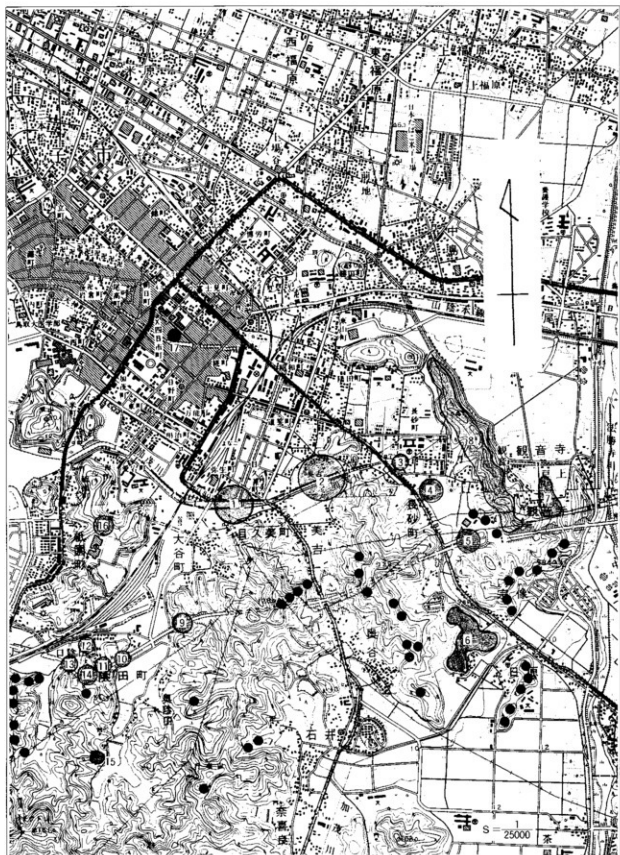
このことから、本遺跡は当地方の初期農耕文化並びに狩猟文化を具体的に物語る貴重な遺跡として益々重視されている。

今回の調査地はJR米子駅南東約600mの市街地、米子市日久美町32-2～135番地に所在し、昭和57・58年の調査地の北約100m、前回昭和63年の調査とは隣接する位置にある。周辺には、隣接の美吉に池ノ内遺跡（2）、陰田では縄文時代の遺跡である口陰田遺跡（12）、陰田第1～9遺跡、そのうち第1遺跡（9）は縄文時代前期から後期・弥生時代、第6遺跡（14）は弥生時代、第7遺跡（13）は縄文中期、第9遺跡（10）縄文時代初頭の遺跡である。陰田1号墳（15）、50基からなる陰田横穴群（11）、総泉寺山横穴群（16）等が知られる。

また長砂地域においては、弥生中期から古墳時代の集落遺跡である東宗象遺跡（5）、長砂第1・2遺跡（3・4）、古墳時代に入ると観音寺古墳群（7）、長砂古墳群（8）、高山山塊に42基の古墳・横穴式石室を有する後期の古墳を有する宗象古墳群（6）などが存在する。その他弥生時代中期の遺跡として四日市遺跡（17）などが知られる。

この地域周辺は小規模ながら中瀬沿岸域の遺跡地帯を形成しており、律令制下の「半生郷」域と推定される地域である。遺跡は沖積作用により地表下1m以下に埋没するもので滯水性を特色とするものである。

1 日久美遺跡（弥生）	10 陰田第9遺跡（縄文時代）
2 池ノ内遺跡（弥生）	11 陰田横穴墓群（古墳時代後期）
3 長砂第1遺跡（弥生前期）	12 口陰田遺跡（縄文、弥生）
4 長砂第2遺跡（弥生前期）	13 陰田第7遺跡（縄文早期～後期）
5 東宗象遺跡（古墳時代後期）	14 陰田第6遺跡（弥生）
6 宗象古墳群（古墳時代後期）	15 陰田1号墳（古墳時代後期）
7 観音寺古墳群（古墳時代後期）	16 総泉寺横穴墓群（古墳時代後期）
8 長砂古墳群（古墳時代中期）	17 四日市町遺跡（弥生時代中期）
9 陰田第1遺跡（縄文前期～晩期・弥生）	



第3図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

II 調査の概要

1 調査の経過

平成4年5月米子市下水道部から下水道目久美町地内枝線その4工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて協議があった。当該工事は、目久美遺跡の周縁部と推定される地域を貫通掘削するものであり、昭和63年の下水道工事に伴う調査地と隣接する地域でもあったため、文化財保護法に基づき発掘調査等の必要性が生じた。工事では、現市道下に幅約1m、深さ約1.8m、延長100mほどの掘削後下水管を埋設する為、弥生時代水田層を破壊するものと考えられた。調査は、通行止めや、道路盛土の排除、矢板等の付帯工事が必要となるため、工事と併行しながら4区間に別けて実施し、汚水升設置についてはその都度調査を行う方向で協議された。8月3日より植田建設の協力をうけ、発掘調査に着手した。調査は前回の調査に基づき、道路基盤バラスとその下の砂層を機械にて取り除いた後、素掘りにて弥生水田層と思われる粘土質層の検出作業を行った。湧水が多くポンプを設置したが、狭くぬかるみが著しく検出作業は手間取ったが、10月21日には調査は終了した。

2 遺跡の結果

調査範囲は、当初予定では約125.5m²であったが、矢板などの関係で遺構面で幅約90cm、深さ約1.8m、延長97m、および汚水升部分1m×1.5mを5箇所であらう約95m²であった。

基本土層は西側ではほ6層に分かれ、上部より第1層道路基盤栗石バラス層、第2層灰色粘質土層、第3層黒灰色粘質土層、第4層黄～白灰色砂質土、第5層黒色粘質土層、第6層茶灰色マコモ混合土層で、第5層が弥生水田層と思われる。昭和63年度の調査地と堆積状況はほぼ一致し、弥生水田層のレベルもほぼ一致する。西から13.0m付近より第5層黒色粘質土の堆積が浅くなり、東に向かうにつれて段々と浅くなる。そして第6層茶灰色砂質土層のさらに下に黒色粘土質層の堆積が見られ、弥生時代以前の安定層が考えられる。西側付近で第5層弥生水田面において幅約90cm程の溝を検出した(第4図)。また断面には畦畔と思われる僅かな高まりが、一カ所見られたが、反対側断面には見られず、平面的にも確認できなかったため明確ではない。

西から51.0m付近より東側は工事の関係で調査する深さが浅くなったため、第5層の弥生水田層を明確にすることは出来なかった。当初、標高1.5m付近にシルト質や粘土質の堆積が見られ、標高を見ると昭和57・58年度の調査地とほぼ一致することから、第一水田面がこの付近から高くなると思われた。しかしながら、最下層の一部で足跡の残る安定した黒色粘質土が見られることや、西からのつながりを考えると、第5層の弥生水田層は西側とほぼ同じレベルで東に延びていると考えられ、弥生時代以

降にも比較的安定した時期があったのではないかと考えられる。

このことから、目久美遺跡における水田の広がり、山側である昭和57・58年度の調査地から緩やかに傾斜してきて、前回の調査地を含む今回の調査地一帯はほぼ平坦な広がりを為していたと考えられる。

西から72m付近の砂質層において、東西方向に流れていた砂の堆積が、この付近で南北方向に流れる砂の堆積に変化している(第6図)。最大幅9.7mで弥生時代以降にかなり大規模な流水があったと考えられる。この流水は流路が変化したと考えられ、二次流水幅は約6.5mと思われる。標高1.5m付近シルト質や粘土質の堆積層を一部切っていることから、この弥生時代以降の安定時期の前後に流水があったと考えられる。

3 出土遺物(第7図)

出土遺物は取り上げ点数は70点程度あったが、いずれも小片で実測可能遺物は18点にすぎなかった。土器は弥生水田層と思われる第5層黒色粘土層上面及びその上シルト層に集中していたが、黒色粘土層中からも数片検出した。縄文土器は比較的上流(東側)に集中しており、縄文土器口縁部2(No.1・2)、縄文土器底部9(No.6~14)を検出した。No.2とNo.7は胎上から同一個体と思われる。弥生土器は比較的中流付近で集中して検出した。弥生土器口縁部3(No.5は前期、No.3前期~後期、No.4中期)、弥生土器底部2(No.15前期、No.16中期)を検出した。その他の遺物として、黒耀石の未完成品石鏃(No.17)、石器(No.18)を検出した。

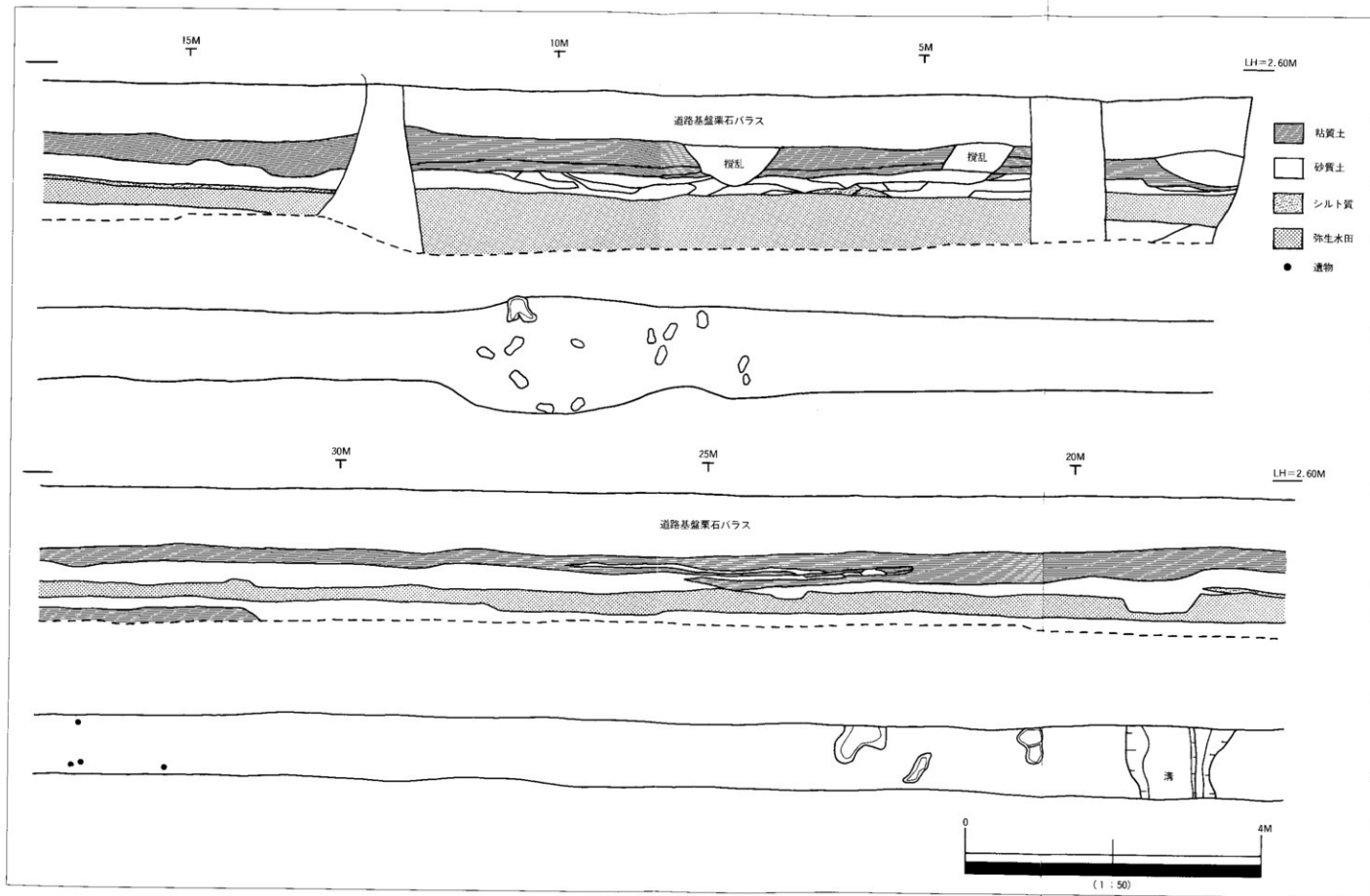
III 小 結

今回の調査は狭小だったうえ、足元が悪かった為、微細な調査を行うことが困難であった。しかしながら弥生水田面を確認し、足跡、水路と思われる溝が検出でき、そして弥生時代以降のかなり大規模な流水の痕跡も確認することができた。

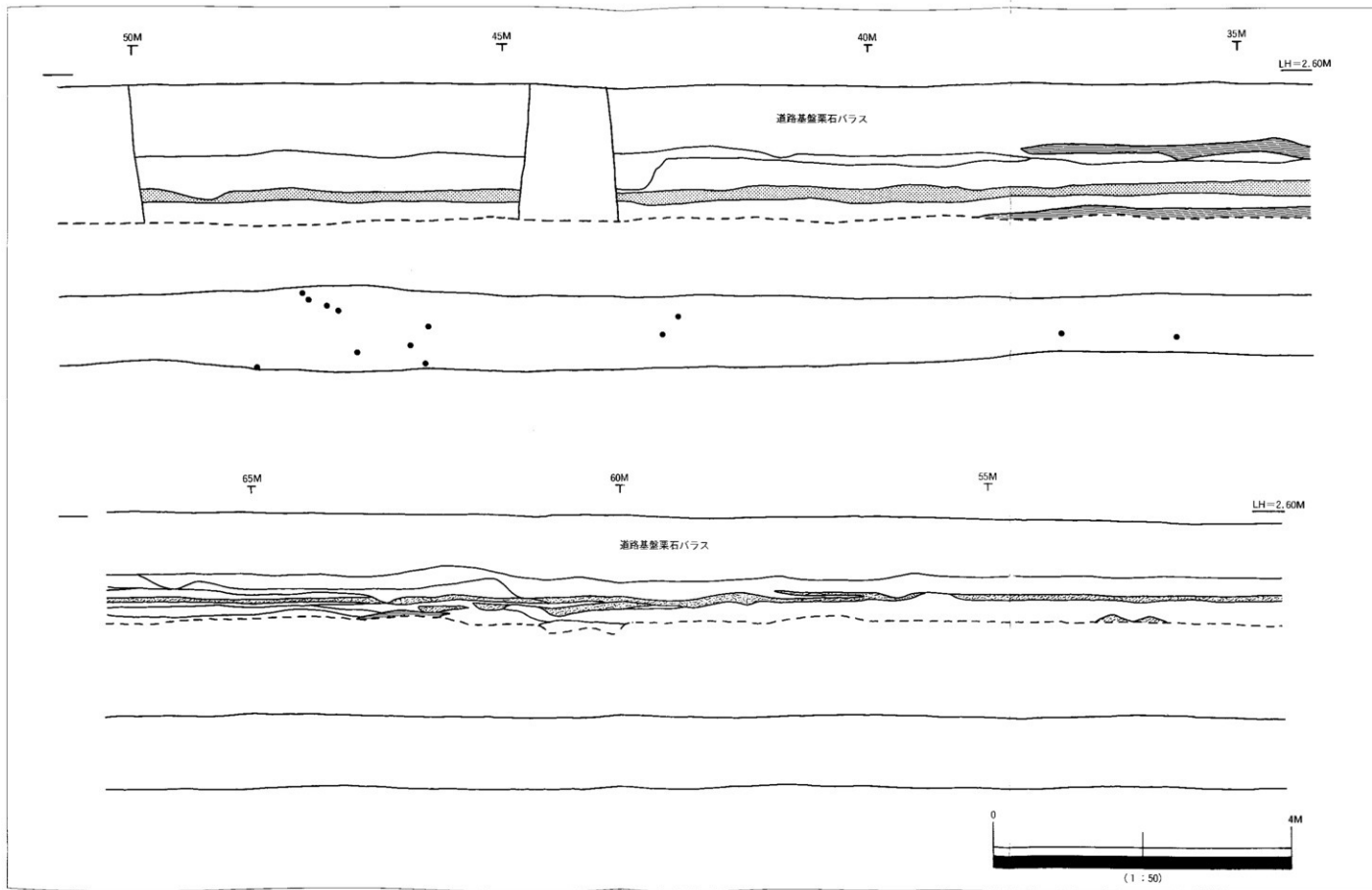
今回の調査によっても弥生水田面を確認できたことで、目久美遺跡が更に北側に広がっていくことの確認が出来た。さらには、当初水田の広がり、山の間を扇状に広がっていくであろうという説であったが、今回の調査の結果によって緩やかな傾斜の後、平坦な広がりを成すであろうという新たな展開を示すことができた。

また流水の痕跡を確認するなど、目久美遺跡の新たな一面を垣間見ることができた。ただ範囲が狭いことで、これらの持つ意味を明確に出来なかったことは大変残念である。

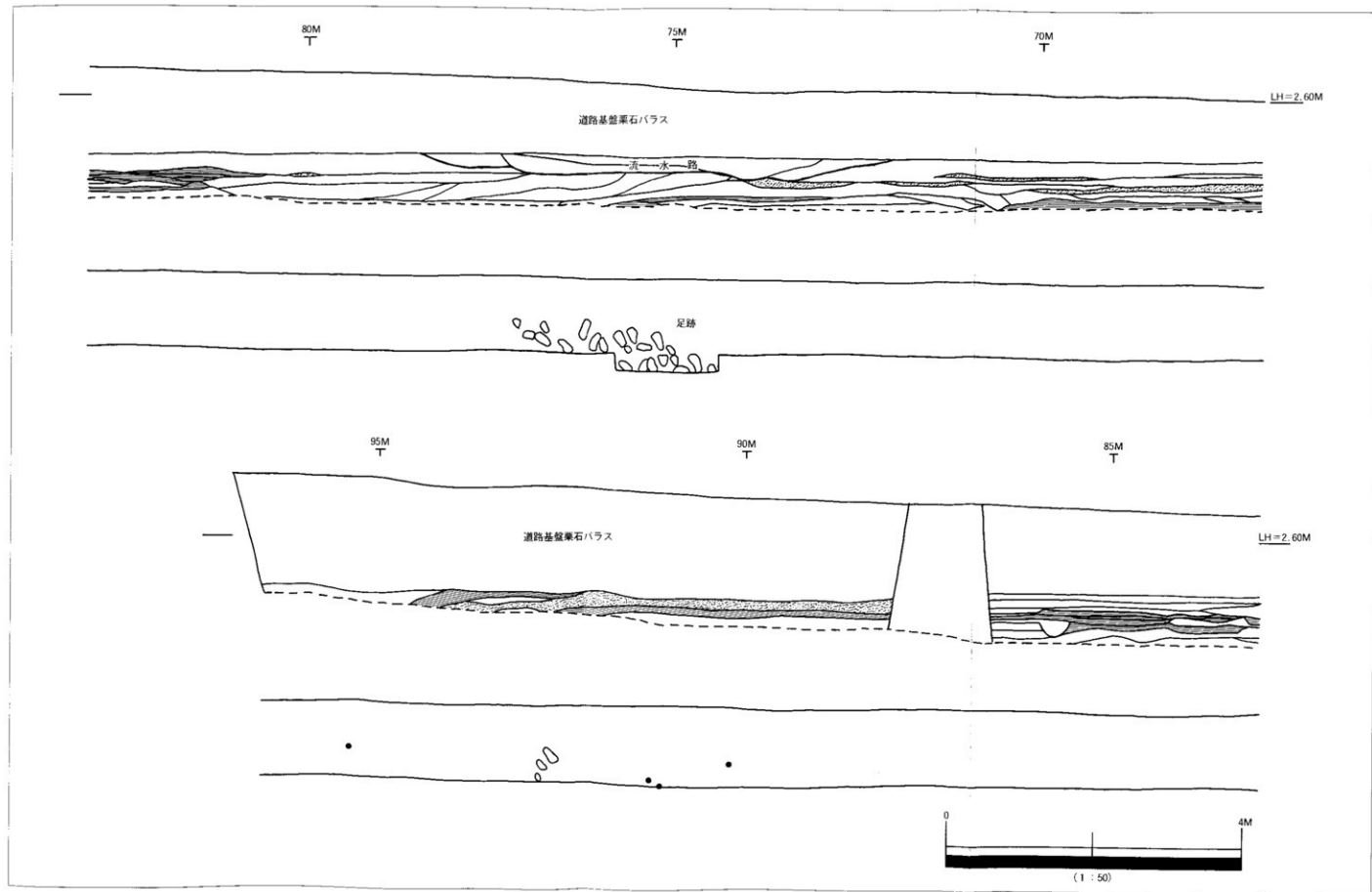
今回のような調査においても、僅かながら目久美遺跡における新たなデータを得ることができた。今後これらの点が一本の線と成って、目久美遺跡全容が解明されることを期待すると共に、さらにはもっと広い範囲での調査が出来ることを願う。



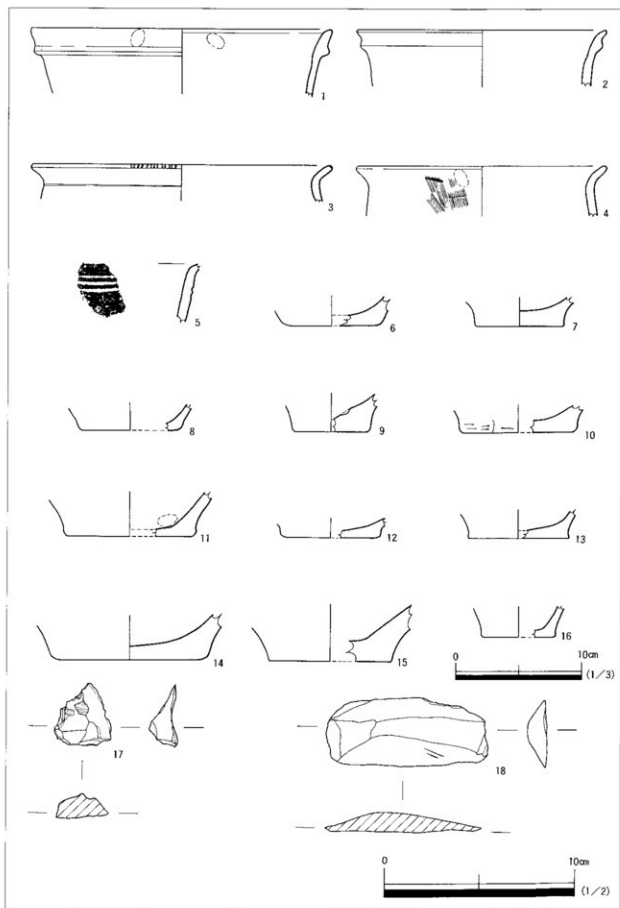
第4図 平面図および土層断面図(1)



第5図 平面図および土層断面図(2)

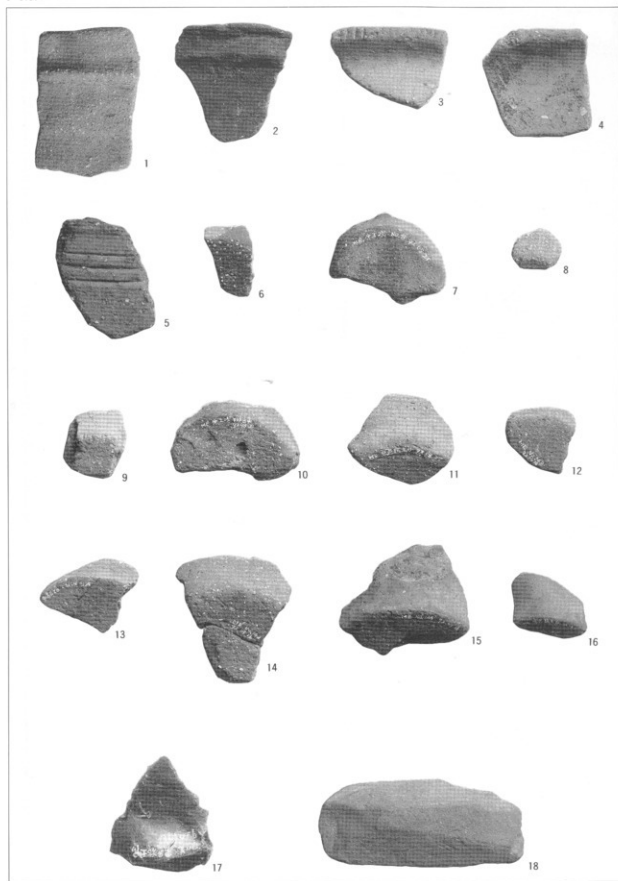


第6図 平面図および土層断面図(3)



第7图 出土物实测图

图版 1





調査状況



足跡



足跡

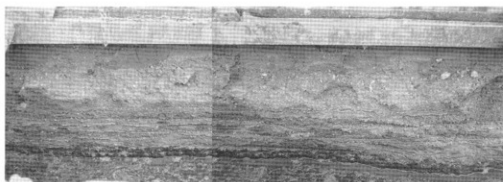
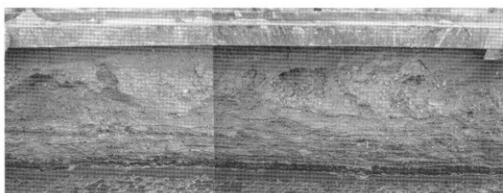
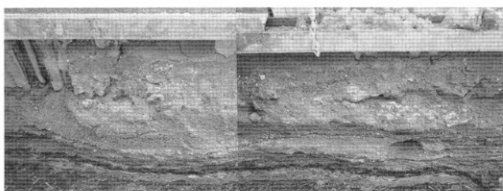
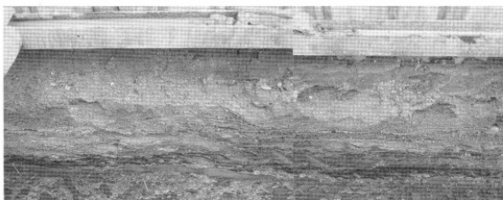


足跡



溝状遺構

図版3



土層状況